

# 若者雇用対策はまったなし デマ

# 残業代、ちゃんときらひんるこ



おおば 裕子

# ゆうゆう通信

日本共産党  
市会議員  
(中原区)  
市政報告

NO, 5  
2007年6・7月

(連絡先)  
日本共産党  
川崎市議員団  
TEL(200-3360)  
FAX(245-4140)  
日本共産党  
川崎中部地区  
TEL(544-7151)  
FAX(541-9228)



街頭で若者の雇用を訴える

「生活保護の支給額と給与の取りの額が同じになった」と「ジョブジョブ」(三十二歳 男性 正社員)「仕事でつかれて精神的障害になりました」(二十四歳 女性 パート・親から独立)と「使い捨て」の労働に苦しむ若者たちの声、声、声……。神奈川の青年たちがとりくんでいる『お仕事実態調査』から若者たちの悲鳴の音が聞こえてきます。

## 川崎市が若年者就職支援施設を開設



キャリアサポートかわさきで職員に話を聞く

今年六月一日から、高津区溝の口にある「てくのかわさき」に若年者の就職支援施設として「キャリアサポートかわさき」が開設され、六月二日に視察にいきました。担当の方から、

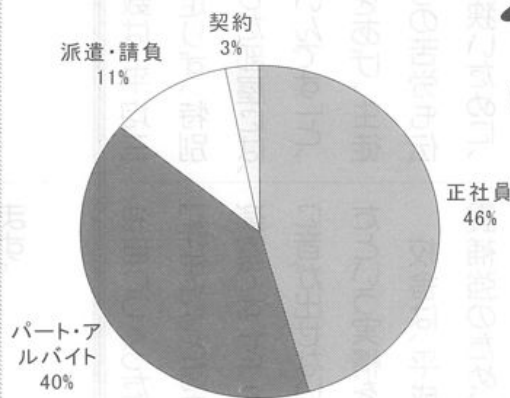
「若い人たちが自信をもって仕事にふみだせるように援助していきたい」「ネットカフェ難民の青年とも話したい」と言っていました。

開設初日は電話での相談が一名、三名の方が相談にきていました。

キャリアサポートかわさき (てくのかわさき5F)  
問い合わせ 0120-95-3087  
電話相談 044-812-1005  
E-mail k-shugyo@iec-jp.com

ただかっている姿がありました。おおば裕子議員は、青年たちといっしょに元住吉駅で「街頭労働相談」や「お仕事実態調査」の宣伝をしたり、川崎市で実施している「若年者のキャリアアカウンセリング」視察や青年と懇談会を行うなど青年の雇用対策にとりくんでいます。

### 非正規社員が54%も!



「青年お仕事実態調査より」

## おおば裕子さんに期待します



元ウェルター級  
日本チャンピオン  
小林 秀一

元ウエルター級日本チャンピオン小林 秀一。いま「ワーキングプア」や「ネットカフェ難民」など青年を取り巻く生活環境は大変ひどいものです。一生懸命に働いても普通の生活ができない、努力しても報われない社会、これでは夢も希望もありません。五月二十日に東京明治公園であこなわれた「全国青年雇用大集会」に三千三百人の青年たちが集まり、私もそこに参加してきました。ここでは、いまの青年たちの職場や生活の実態が発言され、「こんな社会許さない!」という熱気につつまれました。こんな社会をかえるためにも、青年の雇用問題に取り組んでいるおおば裕子さんと日本共産党に期待します。



お盆が近いもんで

若井 茂



産業廃棄物処理施設かながわ  
クリーンセンター中央管  
制室を視察しました

5 / 13



大戸小学校にある  
『わくわくプラザ』  
を視察しました

6 / 1



地域の方たちと武蔵中原駅近  
くの西中原中学校を視察しまし  
た。西中原中は、五十一校ある  
市立中学校で、千百人をこえる  
川崎市一番のマンモス校。校長  
先生は「日本で一番大きい中学



教室を増やしてと訴える先生方

校」とおっしゃっていましたが、そ  
の学校で子どもたちがどんな様  
子で学校生活を送っているのか、  
興味ある内容がたくさんありま  
した。

# 川崎市政に望む「1」と

## 安心して暮らせる 川崎に

藤森 幸雄（上小田中在住）

共産党が取り組んだ「市民センター」では、沢山の要求が寄せられ上小田中だけでも、二十数件ありました。公園の遊具の破損、公園の看板へのペンキによる落書き、カーブミラーの破損、下水溝のつまり、公道でありながら雨が降ると水浸しになるなど、様々な要求が寄せられました。

おおば裕子さんに相談し、一緒に現場に行き、「どうしたら解決するのか」検討しました。

建設センターや公園事務所にも直接交渉し、市民要求実現のため、私たちもおおば裕子さんと共に奮闘しています。しかし、短期間に解決する案件だけでなく、費用もかかり、次年度の予算にまわされる案件もありました。

安心して住める町にするためにひとつひとつの要望を大切に解決するための取組みを市政に期待しています。

一クラス生徒人数は、平均二十八・二人。教室が足りず、特別教室を普通教室にした部屋には、「扇風機がついてないんです」と、担任の先生は悲鳴をあげ、生徒だけでなく先生たちの苦労も伝わります。職員室も狭いため、八十名全員の机はなく、パイプイスを二十脚出して職員会議をおこなっているとのこと。校舎内を歩けば歩くほど、驚きの連続でした。先生方は、「これを見てく

独自につくった窓枠を示し、また「昨年やこと防音設備がついた音楽室です」と、それまでは「まともな音が出せないでいた音楽室」だったという実情を訴えていました。

校舎は、平成二十一年には耐震補強のため、大規模改修の計画になっていますが、「大型公共開発より、未来ある子供たちに、最優先に予算をまわすべき」とあらためて、実感しました。

おおば 裕子

### 私たちの町

## 「宮内と多摩川」の地名

「宮内」は多摩川に突き出た集落です。と言っても、江戸時代中頃、今のよつこしかりした堤防がなかった頃のことです。大雨の後、多摩川の水がもの凄い勢いで、宮内の台地を残し、えぐって流れました。その後、流れが東京寄りとなり、本家から取り残された「野毛」「等々力」の名は、こちらの岸で生きていくことになったのです。同じ地名が多摩川の対岸にもあるのはその証です。



等々力グラウンドと当時の土手

大土手を歩くと、その流れの痕跡が段差となっており、大水にも耐える堤防が大正年間につくられ、東京へは宮内の渡しが便利でした。渡しは、戦後の食糧難の時代（昭和二十年代）、食料の買い出しに大いに利用されたそうです。なほ当時はテ領用水の分水で潤った稲毛米と言われる銘柄米の主産地でしたから。

地名研究者 やすいみちこ

※ 前号記事で、「中原区で八議席から十議席」は、「川崎市で八議席から十議席」の誤りでした。お詫びして訂正致します。